



2025年11月19日掲載

## 米国の政府閉鎖終了と金利

43日にわたる米国の連邦政府機関の一部閉鎖が終了しました。これは一種の政治ショーであって、連邦職員に閉鎖期間の賃金が支給されるなどから、経済全体への影響はごく限定的でしょう。

しかし、市場が一番注目するのは遅れていた経済指標の発表です。失業率やインフレ率の過去分がまとめて発表されると、米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げタイミングについて市場が揺れ動く恐れがあります。

雇用統計は、10月3日から発表が延期されていた9月分が11月20日に発表されます。10月の雇用統計では就業者数は発表されるものの、個別に調査できなかった失業率の発表は見送りとなりそうです。さらに11月分は、データはそろそろようですが発表時期が少し遅れるとの見通しです。

一方で、データ収集が行なわれなかった10月の米消費者物価指数(CPI)は、発表されず欠損となる見通しです。11月のCPIでは、月前半のデータ収集が出来なかったことで、ブラックフライデー商戦の値下げの影響が例年より強く出てしまう恐れがあります。

これらの複雑な事態が、12月10日に開かれる米連邦公開市場委員会(FOMC)の意思決定に微妙な影響を与えそうです。パウエル議長は、データ不足を理由に政策金利を据え置く方向にリードする可能性がある一方、いま出ている民間調査結果などで推測を交えて利下げを実行しようとする可能性もあるのです。

いまのところ12月の利下げを予想しますが、どう転ぶか予想しにくいです。米国経済を注視する日銀の利上げ先送りリスクにもつながります。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》